

地元生産者プロフィール

(班編成順)

真 玉 自 然 農 園	(宗一則・森元重数)
き た む ら フ ァ ー ム	(北村俊造・智子)
岬 オ ー ガ ニ ッ ク	(諸 田 文 範)
月 日 (つ き ひ)	(小沼良樹・朋子)
空和楽(あわら)自然農園	(山之内哲・悦子)
た ね こ 心 あ ー む	(植 田 至 紀)

真玉自然農園（宗 一則・森元 重数）

プロフィール

- 就農年：昭和50年（自然農法は平成2年から）
- 経営状況：
 - (1) 経営面積：約5.5ha（畑2ha、田3.5ha）
 - (2) 栽培品目：うるち米（3品種早生～晩生）、もち米、古代米、さつまいも、里芋、玉ねぎ、じゃがいも、人参等
 - (3) 労働力：2名（兄弟）繁忙期はバイトを雇用
 - (4) 販路：団体イベントでの販売や会員の注文販売、ヴィラの会、学校給食等
- 自然農法を始めたきっかけ：

もともとアレルギー体質で悩んで病院通いをしていました。その時に、健康な土の力により作物が育ち、健康な作物を食べることによって健康な人間が養われるという「自然農法」の本に出合ったことがきっかけです。



わたしのこだわり（思い）

- 工夫していること（土づくり、栽培方法等）

自然農法の根本は、土そのものを生かす事です。畑は、ぼかし肥料（EM菌）、廃菌床肥料と試しましたが、現在は緑肥（ソルゴー等）のみ。農薬は一切使わず、栽培中にうね間や株間の土の表面を浅く耕す「中耕」、マルチシート、除草シートを活用。田は、稲わらを使用しジャンボタニシで除草。
- モットー、将来の夢など

自然農法をはじめとした循環型農業の普及や人材育成を行っていくことを自身の使命だと思っています。移住者の研修受け入れもその一環ですが、行政でも循環型農業が生業として魅力的に思えるような取組を推進していただき、裾野が広がっていくことが願いです。



（古代米）



消費者の皆さんへ一言

自然豊かな土地で自然の恵みを生かし、化学農薬や化学肥料を使わずに美味しい米や野菜を栽培しています。消費者のみなさんの要望を聞いてみたいです。

きたむらファーム（北村俊造・智子）

プロフィール

- 就農年：昭和53年
- 経営状況：
 - (1) 経営面積：約1.86ha
 - (2) 栽培品目：有機野菜（根菜類がメイン）
玉ねぎ、人参、じゃがいも、さつまいも
 - (3) 労働力：2名（夫婦）
 - (4) 販路：コープ九州、関東の生協（よつ葉生協、自然派くらぶ生活協同組合）、高田朝つゆ市場の会、夢むすび、学校給食センター等
- 就農のきっかけ：

就農当初は、みかん栽培を行っていたが、経営が思わしくなくサツマイモを栽培。日販連の知人から、宮崎県綾町産のサツマイモが不作の時に代替出荷を依頼され、これを契機に本格的に栽培。消費者との交流が深まっていくうちに、安全・安心の要望に応えようと減農薬から始め平成10年から有機農業へと切り替えました。



わたしのこだわり（思い）

- 土づくり：地元焼酎メーカーから焼酎かす（生へこ）、有機質資材、自家製ぼかし肥料等を使用。
- 工夫していること：

サツマイモの畝と畝の間の溝に除草シートを敷いている。
また、農作業の軽減・省力化のため、自作で機具を改良。



焼酎かす（生へこ）



手作りの除草シート巻き



サツマイモ収穫機（自身で溶接）

- 将来に向けて：

今後は、放置林の竹を活用した竹チップ堆肥を活用したいと思っています。現状は農産物の引き合いも多いので、生産体制が追い付かないため経営面積は現状維持です。



消費者の皆さんへ一言

プランターでもよいから、野菜づくりをしていただきたい。手をかけないと野菜ができないことなど知ってもらいたいです。

また、採りたての野菜を食べて実感してほしい、そして、有機野菜を食べてほしいと思います。

岬オーガニック 「諸田 文範」

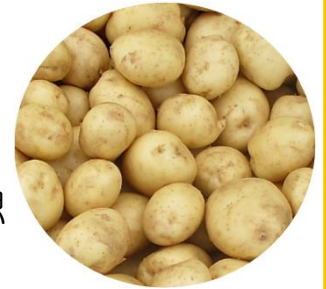
プロフィール

- 就農年：平成24年から有機農業の準備、平成29年から本格的に有機農業を始めました。
- 経営状況：
 - (1) 経営面積：約4ha
 - (2) 栽培品目：落花生、自然薯、さつまいも、じゃがいも、菜花（令和5年から試験栽培）
 - (3) 労働力：1名、繁忙期はバイト雇用
 - (4) 販路：固定の消費者（ネット販売含め）、ふるさと納税返礼品、小田原ふるさと市場、学校給食等
- 就農のきっかけ：（有機農業を始めたきっかけ）
若い頃から自然の中で生活したい。将来的には農業と漁業の時代になる、農業と漁業は発展していくしかない職種だと思っていたことがきっかけ。



わたしのこだわり（思い）

- こだわり
農業人生で、肥料・農薬の名前を覚えるのではなく、「どうすれば使用しなくてもよいか」に時間をかけたいと思っています。
- モットー（経営方針） 将来の夢など
お客様が一番。お客様の声を聴きながら、いいもの・美味しいものを、いかに効率的に作るかを第一に考え、自分に納得した金額で販売すること。
将来的には、会社組織を作り新規就農者の方を受け入れ、私の失敗してきたことを伝えていけたらと頑張っています。



消費者のみなさんへ一言

消費者の方は見た目や形できれいな作物を選択されます。これは私たちのPR不足も要因ですが、当たり前のことだと思っています。現状、まだまだ農薬や化学肥料を使用したきれいな作物にはかないませんが、一部の作物については遜色ない出来栄えのものが作れるようになりました。これからも少しずつ増やしていけるよう頑張っていきます。

月日（つきひ） 「小沼 良樹・朋子」

プロフィール

- 就農年：令和2年
- 経営状況：
 - (1)経営面積：約2.5ha
 - (2)栽培品目：自然栽培米（うるち米、古代米）
 - (3)労働力：2名（夫婦）
 - (4)販路：個人のお客様、自然食品店、飲食店、ふるさと納税返礼品等
- 就農のきっかけ：（有機農業を始めたきっかけ）

豊後高田市に移住してくる前は、神奈川県にて夫婦で小さな食堂を営んでおりましたが、そのお店で提供していた農薬や肥料を使わないお野菜、お米の美味しさや、農家さんとの関わりから、農家としての生き方に魅力を感じ、就農しました。



わたしのこだわり（思い）

- 工夫していること（土づくり、栽培方法等）

農薬、除草剤、肥料を何も使わずに、お米を収穫した時の稲わらのみを田んぼに還すことで、自然に生えている植物により近い生育方法を心掛けています。そうすることで、本来稲が持っている力を最大限に引き出すことができ、元気でたくましいお米が育つと思っています。
- モットー（経営方針） 将来の夢など
この地で長くお米作りを続けていくため、そして、お米作りを続けられる環境を次世代に残していくため、より環境負荷の少ない田んぼ作りを心掛けています。この地で自給用のお米作りをしたい、お米農家を目指したい、と思うような方が現れたら、そのサポートも行っていきたいと思っています。



消費者の皆さんへ一言

月日の田んぼは、山あいの18枚地続きの田んぼですので、他の田んぼからの農薬飛散などの心配もありません。令和6年からは、2畝の小さな田んぼを、子供が泥んこになって遊べる場として開放する予定です。生き物たくさんの方々の月日の田んぼへ、是非遊びにいらしてください。

連絡先：E-mail info@tukihi.net
オンラインショップ <https://tukihi.theshop.jp>
インスタグラム @tukihi_tambo_stay



空和楽(あわら)自然農園 (山之内哲・悦子)

プロフィール

- ・就農年：令和3年
- ・経営状況：
 - (1)経営面積：約2.6ha（田2.5ha、畑1.0a）
 - (2)栽培品目：うるち米（朝日、コシヒカリ、ヒノヒカリ、ハッピーヒル）、さつまいも
 - (3)労働力：2名（夫婦）
 - (4)販路：学校給食、ネット販売等
- ・自然農法を始めたきっかけ：

20歳前半に渡航。貧困の国など、たくさんの見聞や経験をし環境や農業の大切さを実感。自分でも自然の力を生かした農業をやりたいと考えるようになりました。令和元年に本格的にやりたかった自然農法の研修受け入れ先のあった豊後高田市に移住。5年以上耕作放棄地だった田んぼを開墾し、令和3年に米農家としてデビューしました。



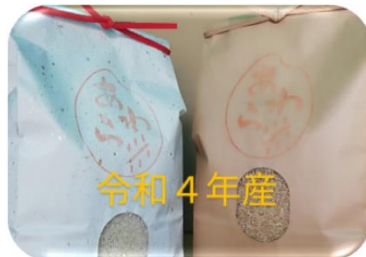
「空和楽」の命名は、子どもの名前から。
(空生、和愛、楽夢)

わたしのこだわり（思い）

- ・工夫していること（土づくり、栽培方法等）

農薬や肥料は一切使わず、除草は、ジャンボタニシとの共生、田んぼで採れた稲わらや雑草を漉き込み（有機質肥料でも他所からは持ち込まない）、土壌菌の力を引き出す自然農法で栽培しています。
- ・モットー、将来の夢など

自然（地球）にとって良いことは人間にとっても良いこと。お金儲けのために自然に害を与える農業ではなく、たとえ収量が落ちたとしても環境が良くなる農業、耕作放棄地がよみがえり、生き物がたくさん生息している田んぼにしていくこと、そこで採れた米を子どもたちに食べてもらうこと。行政には、子どもたちに環境を守る農業の食育や学校給食での活用を推進していただき、環境を守る農業が未来に向かって広がっていくことが願いです。



「ハッピーヒル」多収品種で猫じゃらしのような穂が特徴です。

消費者の皆さんへ一言

環境を第一に、安全で美味しいお米を栽培しています。消費者のみなさんと環境や学校給食について語り合いたいです。

連絡先：E-mail：awara.shizennouen@gmail.com

プロフィール

・就農年：平成22年（有機農業：平成26年）

・経営状況：

(1)経営面積：約5ha（うち有機栽培1ha）

(2)栽培品目：有機：かぼちゃ・すいか等、水稲
慣行：白ネギ

(3)労働力：2名（夫婦）、繁忙期はパート雇用

(4)販路：直売所（夢むすび、小田原ふるさと市場）、
スーパー、個人のお客様（玄米）

・就農のきっかけ：（有機農業を始めたきっかけ）

平成21年に関西から妻の実家（農家）である豊後高田市に移住。もともと幼いころから土いじりが好きだったこと。せっかく自然豊かな田舎で農業に従事するのだから、自然に近い農業をやりたいというのは自然のなりゆきでした。



わたしのこだわり（思い）

・こだわり、思い

耕起、施肥は最小限におさえできるだけ自然に近い形を心がけています。ちなみに最大のこだわりは、あえて言えばこだわり過ぎないこと。

自然の片隅でのささやかな営みのために試行錯誤を続けていきたいと思っています。



消費者のみなさんへ一言

見栄えではなく、安心・安全を重視するニーズの広がりが有機農業を後押しします。

生産者が日々努力を重ねることは言うまでもありませんが、消費者のみなさんの食への意識が変わっていくことこそ、有機農業を推進する大きな力になると思います。